



Y医院様をご要望された、Y医院仕様の「津波避難タワー浮上式シェルター」を設置しました。
Y医院様のご了解を得たうえで、ご紹介しています。

Y医院様は、海岸から約900mの距離にあり、内閣府発表(平成25年3月18日)の南海トラフの巨大地震による、静岡県焼津市の最大津波高さは11mと発表されています。

Y医院に通院される患者さんの中には、高齢者も多数おり、歩いて避難できる範囲には高層の避難場所もなく、さらに、高齢者が高い建築物に階段で避難するのは不可能に近いことから、患者さんと近隣の人々の避難施設として購入を決められました。

■Y医院様が「津波避難タワー浮上式シェルター」の購入を決められた理由

- ①シェルター部がオールステンレス製のため塩害に強く、長期に渡りメンテナンスフリー。
- ②タワー構造のため、津波の高さがタワーの高さより低い場合には、シェルター部は津波に流されないため安全性が高い。
- ③設置場所と使用条件に合わせ、希望する仕様で製作可能。

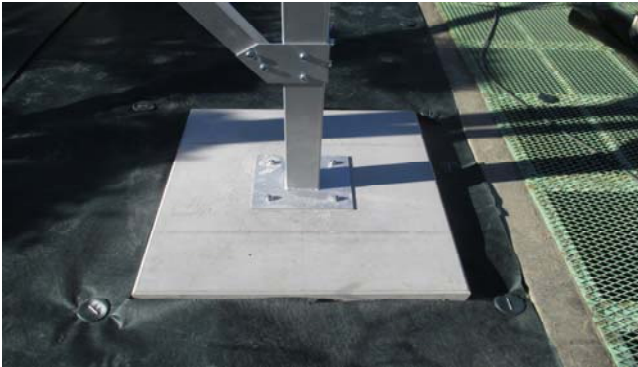
■Y医院様からのご要望

- ④収容人数は最低20名を希望。
- ⑤四点式シートベルトを希望。
- ⑥タワー部の高さは2～3mを希望。
- ⑦階段は、高齢者でも楽に登り降りできるように、巾広でゆるやかな傾斜を希望。

■Y医院のY先生の話

Y先生は、設置した「津波避難タワー浮上式シェルター」を見て、想像していたより頑強な構造に大満足だと話されています。

設置方法について、ご紹介します



■タワーの基礎部

基礎部は、現地で施工しました。
柱下部を表層改良したあと、コンクリート盤(重さ約250Kg/1枚)をレベル調整して設置し、アンカーボルトにより柱を固定。



■タワー部(梁下部までの高さ、約2m)

タワー部は、階段、柱、梁、補強用アンカーで構成し、ボルト・ナットにより設置場所で組み立てました。
階段部は、両側に2段式手すりを取り付け、巾広で傾斜をゆるやかにしました。



■浮上シェルター部(着席収容人数22人)

浮上シェルター部は工場で組み立てたあと、トラックで搬送し、クレーンで吊り上げ、タワー上部に設置しました。



■設置完了

「津波避難タワー浮上式シェルター」の設置方向は、津波を浮上シェルターの前方向で受けるように、浮上シェルターの前方向と海岸線が向き合うように配置しました。
最後に、タワー部とシェルター部を連結するためのL型回転レバーを取り付け完成。
左写真は、電動式船外機を取り付けた状態。